

西中図書館 新刊オススメ本



『安楽死を遂げた日本人』
宮下 洋一 [著]
小学館

本書は、神経の難病を患う日本人女性が、寝たきりになる前に死を遂げたいと切望し、スイスで愛する家族に囲まれて

安らかな最後の時を迎える姿に密着した圧巻のルポルタージュです。

自らの意思で人生を閉じる「安楽死」は、日本ではまだ認められていません。患者や家族の苦しみ、葛藤、そこから導き出された『生き方』、そして『死に方』…。自分の死生観を改めて考えさせられる一冊です。



『これ一冊ではじめる！日曜大工』
山田 芳照 [著]
ナツメ社

『キッチンでできる草木染めレッスン帖』

佐藤 麻陽 [著]
ブティック社



『119』
長岡 弘樹 [著]
文芸春秋

『旧友再会』

重松 清 [著]
講談社



町民ギャラリー 手芸友の会

今月は、秋田 タツ子さん（橋屋）の作品です。

作品名

- ◎ベスト・パンツ・フリルネックウォーマー（写真左）
- ◎しぼり手毬・風鈴・タオル掛け・壁掛け小物（写真右上段）
- ◎ショルダーバッグ（写真右中段）
- ◎額入り着物・さるぼぼ（写真右下段）



作品作りを振り返って

手芸友の会に入会し、一年余りです。ご指導の下、さまざまな技術を身に付け、一生懸命仕上げました。手を使い、また、頭も使い、健康の為に良いと思います。時間のある方、ぜひお友達になりませんか？



沖縄夏季交流



異文化化学び たくましく

今年で26回目を迎えた本年度の沖縄県大宜味村との交流事業は、7月26日から29日までの3泊4日の日程で開催されました。今回から参加対象者が小学6年生となり、希望者17人が参加しました。

町役場前で行われた出発式では、外島和夏さんが「沖縄の文化や食べ物、自然について学んできたいです」と抱負を述べました。その後、約9時間をかけて大宜味村に到着し、宮城功光村長をはじめ、大宜味村の児童や保護者の皆さんの歓迎を受けました。歓迎式と対面式では、町の参加児童を代表し、斎藤愛華さんが「沖縄の料理や文化、また、平和について学びたいです。そして皆さんと友達になれることを楽しみにしています」

とあいさつしました。1日目は大宜味村の隣、国頭村の施設に両町村の児童と引率者全員が宿泊しました。児童らは夕食後のレクリエーションを終えた頃にはすっかり打ち解け、翌朝、保護者が迎えに来た時にはまるで兄弟のように仲良くホームステイ先へ移動していました。

楽しい時間が過ぎるのはあっという間で、28日の午前10時からお別れ式が行われました。式では、鈴木ゆめ花さんが「エメラルドグリーン」の海での海水浴や沖縄の食事など思い出深い体験ができました。来年の2月にまた会えることを楽しみにしています」と感想を述べ、西会津町での再会を誓いました。

最終日の29日は平和祈念資料館やひめゆりの塔などを見学し、戦争の悲惨さと平和の大切さを肌で感じました。

参加した児童の皆さんは異なる文化に対する理解や平和の大切さなどを学び、ひと回り成長しようでした。